

## 評価シート 様式

取組名	南三重地域活性化プロジェクト		
実施団体名	南三重地域活性化事業推進協議会	対象地域	尾鷲市、熊野市、大台町、大紀町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町
(代表団体名)	有限会社 熊野市観光公社	推薦団体名	三重県、尾鷲市、熊野市、大台町、大紀町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町
① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか		② 実施 体制
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。 (備考・特記事項)		
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について		④ 継続 展開 の見 込み
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかつたと認められる。 (備考・特記事項)		
		平成20年度に行われた取組の実施体制について	
		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。	
		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。 (備考・特記事項)	

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

## 評価シート 様式

取組名	南三重地域活性化プロジェクト		
実施団体名	南三重地域活性化事業推進協議会	対象地域	尾鷲市、熊野市、大台町、大紀町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町
(代表団体名)	有限会社 熊野市観光公社	推薦団体名	三重県、尾鷲市、熊野市、大台町、大紀町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見 南三重8市町が一体となって取り組むことで、地域経済への波及効果を狙った取組と評価できる。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、個々の観光地が独自に事業に取り組むのではなく、南三重8市町という広域的な連携を図り、「南三重ブランド」という統一的形象をもって観光振興を促進する点が評価できる。ただし、今後の取組については、以下に留意しつつ地方の元気再生事業を継続することにより本格展開を目指すべきものである。
	統一イメージの発信や観光情報の発信については、今年度の取組で一定の成果を得られたことから、次年度以降はその成果の活用を自立的に行っていくことが適当である。一方、本年2月に供用開始となった休憩施設の有効活用や道の駅のネットワーク推進については着実に進めていくべきであり、また名古屋都市圏との新たな連携による南三重物産販売促進については、新たな連携による効果の創出に重点化して実施すべきである。また、学生に起業の場を提供する長期インターシップなど新たな交流スタイルの開発については、モデル性のある取組となりうるものであり重点化して進めることが期待される。あわせて、取組内容に即して効果と直結した目標値の設定を合わせて行うべきである。